

刊行にあたって

神奈川県立図書館では、これまで様々な「目録」を作成してきました。

経緯を振り返りますと、まず、一般図書については、昭和34年(1959)から冊子体の蔵書目録を刊行していました。しかし、平成12年(2000)3月にOPAC(蔵書検索システム)がホームページに公開されたのを機に、冊子体目録の作成は取り止め、これに替わり、司書による解説や表紙写真等を掲載した“読める目録”として、平成13年(2001)に「ベストセラーズ文庫目録」を、平成14年(2002)に「戦時文庫目録」を刊行しました。その後、コレクション資料だけでなく、主題(テーマ)を絞って所蔵資料を紹介するものとして、平成15年(2003)に「入門グレート・ブックス」を、平成16年(2004)に「グレート・ワークスの世界」を、平成18年(2006)に「入門グレート・ブックス西洋文芸編」を、平成19年(2007)に「入門グレート・ブックス日本文芸編」を刊行しています。

一方、地域資料については、昭和35年(1960)と昭和41年(1966)に「郷土資料解説目録」を刊行し、その後、「文化資料館」が設置されていた時代を経て、平成5年(1993)に「かながわ資料室」が開室すると、以降、平成6年(1994)から平成15年(2003)まで蔵書目録を刊行するとともに、「地域資料目録・主題別シリーズ」として、平成8年(1996)から平成16年(2004)まで、ほぼ毎年特定の主題(テーマ)に絞った目録を作成してきました。こうした中、「地域資料目録・主題別シリーズ」についても、解説を付した付加価値のあるものとして編集することが企画され、平成20年(2008)に「かながわの歴史文献55」を刊行しました。

平成21年(2009)以降は、一般図書、地域資料を問わず、主題(テ

一マ) を絞った解説付きの読む目録として編纂することとし、これまでに平成 22 年 (2010) に「飯田九一文庫目録」を、平成 24 年 (2012) に「社史と伝記にみる日本の実業家」(県立両館による共同編集) を、平成 29 年 (2017) に「江戸を読む」を、平成 31 年 (2019) に「相州大山を知る」をそれぞれ刊行してまいりました。

経緯が少し長くなりましたが、当館は、社会・人文系の専門的図書館として資料の収集・保存に力を入れており、こうした資料群の一つとして、数々の「唱歌集」があります。そこで、本冊子では、「唱歌を詠(うた)う」と題し、当館が所蔵する「唱歌集」をテーマに解説付きの目録を作成することとしました。「唱歌」は、戦前の旧制小学校等の教科の一つであり、現在の音楽の授業に相当するものですが、そこで歌われた歌を集めたものが「唱歌集」です。ただし、「唱歌集」の中には、小学校等で歌われるためのもの以外にも、出版されたものがあります。「歌は世につれ世は歌につれ」と言われるように、唱歌には、その当時の世相や歴史的な背景等が様々な形で反映されており、音楽史や世相史等の資料として価値のあるものと思われまます。また、神奈川に所縁のある唱歌として、有名なものだけでも「赤い靴」、「城ヶ島の雨」、「箱根八里」、「鉄道唱歌」等があり、郷土史の観点からも貴重な資料群と考えられます。

本冊子では、こうした中から、いくつかの唱歌集を取り上げて個々に解説を加えるとともに、当館所蔵の唱歌集リスト等も掲載しておりますので、唱歌に興味や関心をお持ちの皆様をはじめ、これらの研究等に従事されている方々にご活用いただければ、欣喜の至りとするところです。

令和 3 年 3 月

神奈川県立図書館
館長 松井 聡明